

ももたろ便り

新年号
Jan. 2018



新年挨拶

2018年を迎えました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、在宅医療分野で最近話題になることの多い言葉に ACP（アドバンスド・ケア・プランニング）があります。

手っ取り早く言えば、将来の意思決定能力低下に備えて、自分の受けたい医療や介護について事前に話し合ったり意思表示したりしておく、というものです。病気が悪化して判断力が低下したり認知症になってわからなくなったりしたとき、自分がどこで過ごしたいか、何をしたいか、あるいはして欲しくないか、といったことを事前に考えておく、家族に伝えておく「もしもの時の心づもり」と考えるとよいでしょう。

自分や家族への負担が少ない最小限の治療の選択肢から、フルコースの治療を希望する選択肢まで、人生観やその時の状況によっていろんな選択肢があってよいと思います。直接生死にかかわらなくても、嚥下（食物の飲み込み）ができなくなったとき胃瘻を希望するかしないか、といった決断を迫られるなど、いろんな場合の「心づもり」が考えられます。こういったことを患者さん御家族で話し合う機会があれば良いと思います。そしてその時に医療的にどのような選択肢があるのかわからないといった場合には、私達ももたろうのスタッフが喜んで相談に乗りますのでお声掛け下さい。

理事長 小森 栄作

TOPIX



【抗菌薬を上手に使う AMR 対策】 ※AMR：病原体が変化して抗生物質・抗菌薬が効かなくなること。

“かぜ”の原因の多くはウイルスであり、抗生物質・抗菌薬は効きません。抗生物質・抗菌薬は細菌を退治する薬ですが、かぜの治療に抗生物質が必須と思い込んでおられる方が多いようです。そして昨今、抗生物質の多用により AMR が問題となっており、今後、何も対策を取らなければ薬剤耐性が拡大し抗菌薬の効かない感染症が増加、予防や治療が難しくなるそうです。たいへん！！

私たちに出来る対策とは？

- ① 感染を防ぐために、日頃から手洗い・咳エチケットをする
- ② 医療機関などで…
 - ・抗生物質や抗菌薬が処方された時は、量と期間を守って最後まで内服する
 - ・症状を詳しく医師に伝える
 - ・わからないことは医師や薬剤師に聞いて不安解消する

私たち自身でも出来る予防対策で、体と未来を守りましょう！



在宅介護 耳より情報

当院から診療に伺っている患者さんが使っている拘縮予防の介護用品です。市販の物は使いにくく、通気性も悪いうえ費用も高いことから母親の手にあったモノを娘さんが作りました。材料は手芸用品店や100均などで購入できます。その他にも歯ブラシ、介護パジャマ、気管カニューラ固定バンドなど、色々なものを創意工夫して使っています。今後もどんどん紹介しますね。



ワンポイントアドバイス

『普通のやけどより症状が重い！低温やけど』

「低温やけど」とはカイロや湯たんぼ・あんか、電気毛布等、体温より少し高めの温度（44℃～50℃）のものに長時間触れ続けることによって起きる火傷です。症状が見た目にはわかりにくかったり、痛みを感じにくい事があるので軽症と勘違いしてしまいがちです。

<なりやすい人の特徴>

皮膚の薄い高齢者、寝返りのできない乳児、知覚や運動能力に麻痺がある方、糖尿病などで手足の循環が悪い方、泥酔している方、体の感覚が鈍くなっている方

<低温やけどの予防方法>

① 湯たんぼ・電気あんかは就寝時には取り出す

厚手のタオルや湯たんぼ袋、専用カバーで包んでもなる恐れが有る為、就寝前に布団に入れ、布団を温める目的で使用し、就寝時には布団から出すように心がける。

② 使い捨てカイロの使用方法を守る

必ず衣服の上に貼り同じ個所に長時間当てないようにし、貼ったまま眠らない、サポーターやガードルで圧迫しないように気をつける。

③ 電気毛布を就寝時に電源を切る

温めた後就寝時には電源を切り、一晩中使用しない。

<低温やけどになってしまったら…>

軽症か重症が分からなくても必ず医師の判断を仰ぎ、適切な治療を受けましょう。



ナースももこ

支える医療へ



医療法人ザイタック ももたろう往診クリニック

〒：700-0924 岡山市北区大元 1-1-29

TEL：086-242-3232

FAX：086-242-3233

MAIL：info@momotaroclinic.jp

URL：www.momotaroclinic.jp

FB：https://www.facebook.com/momotaro.homehealthcare/